雪かき道場における価値共創の分析
—その2：3冬季の5箇所での総合的な比較分析—
Analysis of value co-creation in a Yukikai Dojo
-Part2：Comprehensive analysis of the 3 winters from 2017 to 2019 in 5 places -

Toyama Takafulmi, Seiji Kamimura and Yukinobu Sugihara

1. はじめに
雪かき技術をボランティアに伝え実践する雪かき道場において、鹿島らは参加者がアンケートの自由記述欄に注目し、テキストマイニング分析を行い、非雪国在住者には雪かきが「楽しく新鮮な体験」との印象が強いことを示しました。昨年の雪災研究大会では、平成29年度の雪かき道場で得られたアンケートに基づいて価値共創分析した結果を報告しました。ここでは、平成28～30年度の3冬季に5箇所で開催された雪かき道場で得られたアンケートについて比較分析した結果を報告する。

2. アンケートの集計結果
アンケートの内容は昨年の報告と同様であるが、どこで雪かき道場を知ったかを問う質問を、平成30年度版には新たに追加した。3冬季の雪かき道場の開催地域は、新潟県の3箇所と山形県・長野県の各1箇所である。アンケート回収数は387で、うち男性262人、女性105人、無記名20人であった。

アンケート内の13設問のそれぞれの3冬期の平均値を表1に示す。まず、設問ごと(列)の結果に注目すると、「新鮮」「楽しかった」が平均で4以上と目立って高い値を示している。開催地ごと(行)に着目すると、新潟県の長岡市川口及び、長野市の鬼無里の平均値が全体的に他地域よりも高い値となっている。設問に注目するこの2地域は、「雪国」、「楽しかった」、「対話」が目立つ高いものである。著者らの知り得る限り、雪国の中での地域住民や指導役との対話は交流で、道場での雪かき体験を楽しむことができたので解釈できる。

表1 3冬季の各地域における13設問の平均値
(値が4.5以上のセルを大きな文字で表示)

<table>
<thead>
<tr>
<th>地域</th>
<th>心地良い</th>
<th>学びを</th>
<th>動機付け</th>
<th>第3</th>
<th>交流</th>
<th>雪国</th>
<th>雪国文化</th>
<th>雪国体験</th>
<th>対話</th>
<th>雪国観応</th>
<th>雪国活動</th>
<th>総合</th>
<th>平均</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>長岡市</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>川口</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長野市</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>奈良市</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>石原</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長野市</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>川口</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長野市</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>奈良市</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>石原</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>総合</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

3. 設問の連関分析
昨年の報告と同様に、各設問の連関分析を行った。クラスターの連関係数が大きい項目のみを抽出しクラスタ化したものを

図1 3冬季・5箇所での各設問の基本関連図
(黒色：連関係数4以上、灰色：連関係数2、白色：連関係数1)

4. まとめ
3冬季の5箇所での雪かき道場アンケートについて、参加者と地域と主催者の3者による価値共創の観点から分析を行った。全体として「楽しく新鮮な体験が心地良い」ことを示す。「雪国」の感想が示されたが、雪国におけるイメージの変化や「雪国体験」に共感が示された。この雪国をとした連関分析や自由記述欄のテキストマイニング分析の結果は本報表時に報告される。

3冬季5箇所の参加者の便用度は65%で、来年度も参加したいという希望者数が92%に達することから、初参加者にと

参考文献